ひいおじいちゃんのすいか

国府小・１　　きだか　きょうこ

わたしのひいおじいちゃんは、すいかづくりの名人です。こ年もすいかをたくさんもらいました。

ひいおじいちゃんのすいかは、わたしのかおよりも大きいです。もったら、ランドセルよりもおもくて、手がちぎれそうです。

すいかは、はんぶんにきってスプーンでほじってたべます。おかあさんが、

「ぜいたくたべだね。」

といいました。

すいかは、あまくてシャキシャキしていて、おいしいです。ほっぺたがおちそうです。たべはじめたらとまりません。

おねえちゃんが、

「たねロケットはっしゃ。」

といって、口からたねをプププププーとはき出しました。わたしもまねしてみたら、たねはぽとんとおちてしまいました。ロケットしっぱい。

「へたくそ」

おねえちゃんがわらいました。わたしもいっしょにわらいました。

たくさんたべたら、すいかの中はしるでいっぱいになりました。すいかプールです。ストローでチューチューすいます。おねえちゃんが、

「きょうちゃん、のみすぎ。わたしのぶんものこしておいてよ。」

と、いいました。だっておいしいんだもん。ほんとうはひとりじめしたいけれど、おねえちゃんのぶんものこしてあげました。

たねを、ストローですいこんでしまいました。ストローたねロケットはっしゃ。たねはピューっとおくまでとんでいきました。こんどは大せいこう。

たべおわったら、すいかのなかみはからっぽ。わたしのおなかは、すいかみたいにぽんぽんです。

どうしてこんなにおいしいのかな。きっと、ひいおじいちゃんは、すいかづくりの名人だから、おいしいまっ赤のすいかをつくれるんじゃないかな。

ひいおじいちゃんは、九十四さい。

「らい年も、すいかをつくれるかなあ。」

とひいおじいちゃんはいいました。

ひいおじいちゃん、こ年のすいかもおいしかったよ。ありがとう。いつまでも、げん気でおいしいすいかをつくってね。　３・９